

「恩師は自分の心の中にいる」

校長 博田 英明

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。先日の卒業式は大変感動的な卒業式になりました。在校生代表の阿部恵（あべ めぐむ）君による送辞と、卒業生代表の小田切快斗（おだぎり はやと）君による答辞に、私は感動を覚えました。卒業生は、この3年間の高校生活を思い出しながら、また周囲の人たちに感謝をしながら、翔陽高校という学び舎から旅立っていきました。

さて、1年を締めくくる今日の修了式にあたり、私はこれから皆さんに「学校での出会い、特に先生との出会い」をテーマに話をしたいと考えています。皆さんが中学校から高校に入ってから、まず自分の周囲で何が変わったかということを考えてみてください。その時にいい先生に巡り会ったかどうか、それからいい友達が出来たかどうか、これは大変重要なことだと思います。また好きな教科が出来たかどうか、これは先生との出会いに大いに関係することだと思います。ところが、このいい先生というのはどこにいるかということ、逆説的な言い方になりますが、いい先生というのは自分の中にいるのです。自分の中で求める気持ちがないと、いい先生というのは素通りして見つからないのです。自分がしきりにあることを求めて、それが必ずしも明確な形になっていなくても求める心がある時には、それにカチーンと感ずる先生に巡り会うという可能性があります。漫然と学校に通っているだけでは、まずはピンとこないものではないでしょうか。メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手が、高校時代に野球部の佐々木洋（ひろし）監督に出会い、その後日本ハムの栗山英樹監督に出会ったのも決して偶然ではないと私は思っています。

皆さんは何か自分の潜在的な力を発揮して、将来は自分自身が選んだ職業に就いて活躍したいと願っていると思いますが、その願いがある程度強くならないと恩師、つまりいい先生は見えてこないのです。私自身は恩師の出会いという点では恵まれていたと感謝していますが、客観的にいい先生というのはどこにでもいるものではなくて、こちらと波長が合った先生がいい先生なのです。こちらの波長と言ってもある程度以上の強い波長が出ていないと、その先生も見つからないものであると感じています。それから教科の好き嫌いです、これは先生の影響に負うところが大きいので、その前にやはり自分が本当に好きなものということを決えず考えることが必要だと思います。

ここで私の恩師の話をします。私が広島県の県立高校の3年生の春に出会った英語の高垣俊雄先生です。私は高垣先生の最初の授業の時、「少し変わった先生だな」という第一印象を持ちました。今と違って当時の英語の授業は、ひたすら黙って日本語の説明を聞くものと思っていた私に、英文読解の時間でありながら説明や指示もほぼ100%英語を駆使してとにかく楽しそうに授業をされる高垣先生の登場は驚きでした。50代と思われる小柄な身体からは想像もできないエネルギーと熱意が感じられ、授業には緊張感が漂っていました。

しかし当然生徒の反発もありました。居眠りを決め込む人、質問に真面目に答えず茶化す

人、受験に役立たないと無視する人など、これまで当たり前であった日本語中心の授業に慣れ切っていた生徒にとっては、苦痛以外の何物でもなかったのでしょう。こうした生徒たちを見て、高垣先生も明らかに元気をなくしているご様子でした。もう40年以上も前の話ですが、日本の英語教育の弱点とされる「聞くこと」「話すこと」をどう克服するのが先生の長年の課題だったようで、とにかく読むにせよ聞くにせよ、たくさん英語に触れさせようというのが先生の指導方針だったのです。

そこで先生は、英語による授業と並行して、Exercise Paper と呼ぶ手作りの家庭学習用プリントを毎時間用意してくださいました。質問なども全て英語で書かれており、English-English Dictionary Style Exercise という英単語を英語で定義する感覚を身に付けさせるための問題もありました。50分間の授業でできることには限りがあり、受験も無視できない状況を考えられた上での自学自習を促すためのアイデアだったのでしょう。この家庭学習用プリントは、私にとって教科書だけでは学べない英語の広大な世界を垣間見る絶好の機会となり、英語を読むことが少しも苦でなくなりました。当時の私はいつかこの高垣先生のような英語の先生になりたいと思い、その時の願いが今の職業につながっています。

高垣先生は一昨年5月にお亡くなりになりましたが、先生を偲ぶ会に出席させていただいた時、私は先生が当時授業の時に伝えたかった願いが少しも色あせることなく私の中に残っていることに気がきました。それは多分、当時の私が身に付く英語を楽しく学びたいと強く思っていて、その思いと高垣先生の思いが重なったからではないかと感じています。そういう意味で先生と私の波長が合ったのかもしれない。

今日は「学校での出会い、特に先生との出会い」についてお話ししましたが、皆さんは既に自分の強い気持ちと波長の合う先生に出会っているかもしれません。まだ出会っていないという人も4月からの学校生活の中で会うかもしれません。繰り返しになりますが、自分がしきりにあることを求めて、それが必ずしも明確な形になっていなくても求める心がある時には、それにカチーンと感ずる先生に巡り会うという可能性があります。そういう気持ちで4月からの学校生活を過ごしてみてください。

最後に皆さんにお願いがあります。道路交通法の改正により、現在はすべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となっています。今年1月には「令和6年度から全ての都立学校において自転車通学の際は必ずヘルメットの着用を求める」という東京都教育委員会の方針も出されました。これからは、自転車通学の際は、乗車時の事故から皆さん自身が自分の命を守り、安全に走行するためにヘルメットを着用してください。

私自身、自転車に乗る時は15年以上もヘルメットを着用していますが、ヘルメットをしていて本当に良かったと思う場面がこれまで何度かありました。ある朝、猛スピードで坂を下りてきた自転車と私の自転車が衝突し、私は道路に投げ出されました。幸い、このヘルメットの庇(ひさし)の部分が割れただけで大きなけがはしませんでした。本当にヒヤッとした瞬間でした。皆さんにはこんな怖い思いをしてもらいたくないと思いますが、事故はこちらがいくら注意していても起こる可能性があります。この後、担当の先生からヘルメット着用についての詳しい話がありますので、よく聞いてください。

それでは、明日からの春休みを有意義に過ごされるよう期待して、私の話を終わります。